

畜産経営環境保全実態調査について

令和7年7月1日現在

滋賀県農政水産部畜産課

1. 畜産経営農家戸数

畜産経営農家（注1）戸数は135戸であり、主な飼養畜種による内訳は乳用牛25戸、肉用牛72戸、豚2戸、採卵鶏25戸、肉用鶏7戸となっている。戸数の増減については、前年に比べて、乳用牛は3戸、肉用鶏は1戸の減少、豚は横ばい、肉用牛と採卵鶏が各1戸の増加となっている。

畜種	農家戸数	前年	飼養戸数 対前年比(%)	管理基準適用状況(注2)	
				基準対象	基準以下
乳用牛	25	28	89.3	24	1
肉用牛	72	71	101.4	72	0
豚	2	2	100.0	2	0
採卵鶏	25	24	104.2	12	13
肉用鶏	7	8	87.5	2	5
計	131	133	98.5	112	19

注1：令和7年7月1日現在、以下のいずれかの家畜を飼養する農家

・牛は2頭以上、豚は6頭以上、鶏は100羽以上

ただし、学校、公共施設等で畜産経営の目的以外での飼養形態や、趣味やペットとしての飼育形態は除く。

注2：管理基準とは家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律第3条に基づき、畜産業を営む者が遵守すべき基準

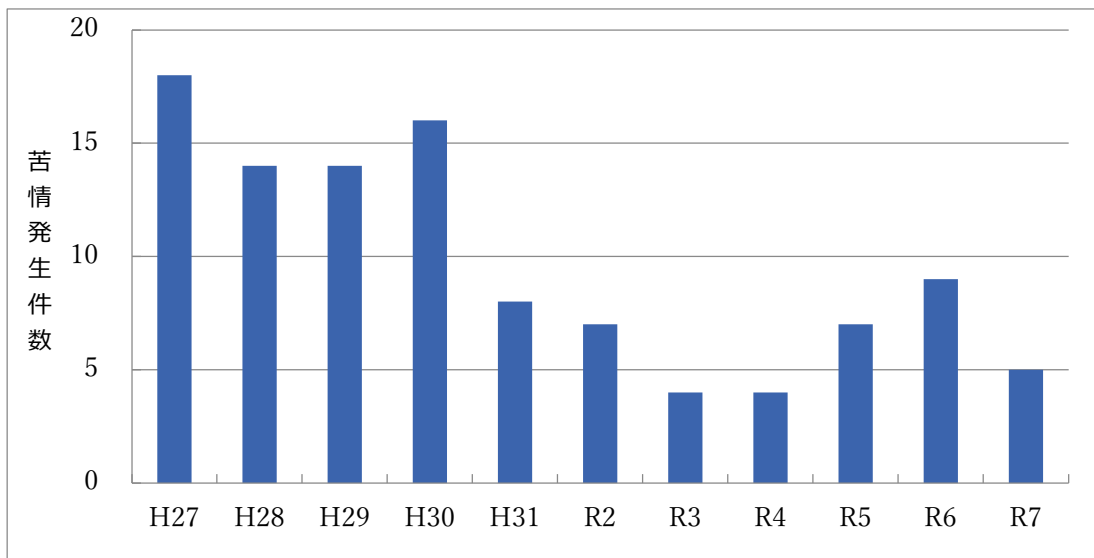
・管理基準適用対象は、牛は10頭以上、豚は100頭以上、鶏は2,000羽以上

※資料 ・表1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数

・図1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移

2. 畜産経営に起因する苦情の発生状況

畜産経営に起因する苦情の発生件数（注3）は、令和5年調査より増加に転じたが、今回調査では前年より5件減少した。苦情の内容としては、「悪臭」4件、「悪臭と害虫」1件であり、複数のものも報告されている。



注3：発生件数は当該年の7月1日までの1年間に市町等行政機関に届け出られたもの

3. 家畜排せつ物の処理と利用について

家畜排せつ物の年間発生量（注4）は、乳用牛 39.7 千トン、肉用牛 209.1 千トン、豚 2.5 千トン、採卵鶏 11.0 千トン、肉用鶏 5.3 千トンで、合計 267.6 千トンと推定される。

処理方法別の仕向け量（注5）は、発酵処理が 236.9 千トン（88.5%）、乾燥処理が 25.2 千トン（9.4%）、直接還元処理等が 5.4 千トン（2.0%）となっている。

堆肥の利用状況（注5）は、全ての堆肥が肥料や土づくり等で農業利用されており、その利用先内訳は自己所有圃場 53.3 千トン（30.1%）、他人所有圃場（販売含む）123.9 千トン（69.9%）となっている。他人所有圃場への堆肥利用には、耕種農家と堆肥の稲わら交換や飼料用米生産等の耕畜連携の取組が含まれている。

（単位：千トン/年）

	家畜排せつ物 発生量	仕向け量			堆肥量	堆肥利用状況	
		発酵 処理	乾燥 処理	直接還元 処理		自己所有 圃場	他人所有圃 場（販売含む）
乳用牛	39.7	33.2	2.6	3.9	27.0	12.2	14.8
肉用牛	209.1	187.4	20.8	0.9	137.5	40.5	97.0
豚	2.5	2.5	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7
採卵鶏	11.0	9.4	1.0	0.5	7.4	0.5	6.9
肉用鶏	5.3	4.4	0.8	0.1	3.6	0.1	3.5
計	267.6	236.9 (88.5%)	25.2 (9.4%)	5.4 (2.0%)	177.2	53.3 (30.1%)	123.9 (69.9%)

注4：発生量は、畜産経営農家の当該年の2月1日現在家畜飼養頭羽数に原単位を乗じて算出したもの

注5：仕向け量および堆肥利用状況は、当該年の7月1日までの1年間の実績を示したもの

注6：端数処理の関係で、家畜排せつ物発生量と仕向け量の合計値が一致しないことがある

※資料 ・表2 家畜排せつ物発生量

・図2 年次別家畜排せつ物総発生量

・別紙「家畜排せつ物の発生と家畜ふん堆肥の利用について」

表 1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数

乳用牛	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H27	57	95.0	55	96.5
H28	49	86.0	49	100.0
H29	48	98.0	48	100.0
H30	46	95.8	42	91.3
R1	43	93.5	42	97.7
R2	41	95.3	40	97.6
R3	41	100.0	39	95.1
R4	34	82.9	34	100.0
R5	30	88.2	30	100.0
R6	28	93.3	27	96.4
R7	28	100.0	24	85.7

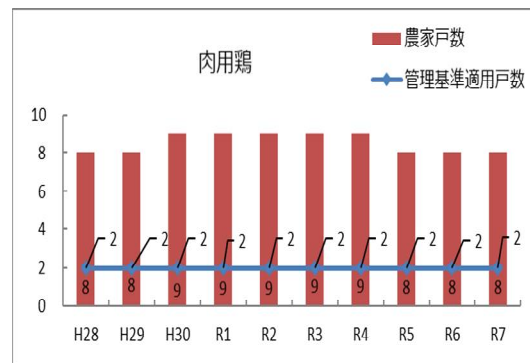
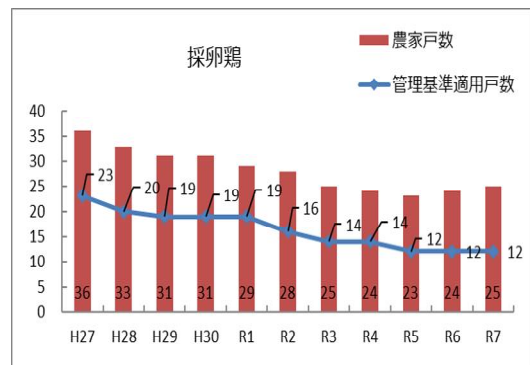
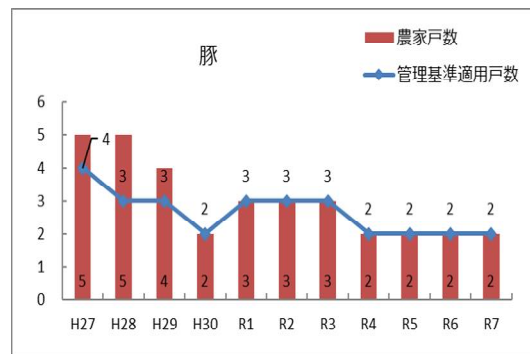
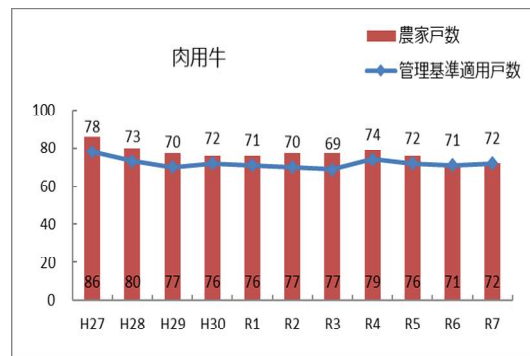
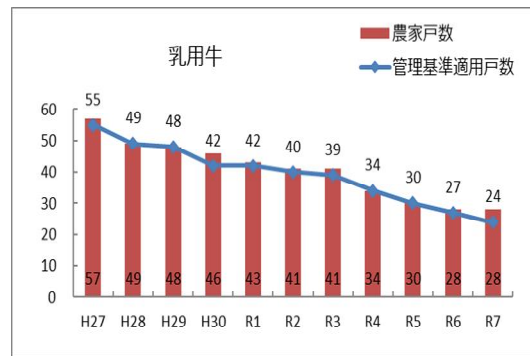
肉用牛	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H27	86	97.7	78	90.7
H28	80	93.0	73	91.3
H29	77	96.3	70	90.9
H30	76	98.7	72	94.7
R1	76	100.0	71	93.4
R2	77	101.3	70	90.9
R3	77	100.0	69	89.6
R4	79	102.6	74	93.7
R5	76	96.2	72	94.7
R6	71	93.4	71	100.0
R7	72	101.4	72	100.0

豚	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H27	5	100.0	4	80.0
H28	5	100.0	3	60.0
H29	4	80.0	3	75.0
H30	2	50.0	2	100.0
R1	3	150.0	3	100.0
R2	3	100.0	3	100.0
R3	3	100.0	3	100.0
R4	2	66.7	2	100.0
R5	2	100.0	2	100.0
R6	2	100.0	2	100.0
R7	2	100.0	2	100.0

採卵鶏	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H27	36	94.7	23	63.9
H28	33	91.7	20	60.6
H29	31	93.9	19	61.3
H30	31	100.0	19	61.3
R1	29	93.5	19	65.5
R2	28	96.6	16	57.1
R3	25	89.3	14	56.0
R4	24	96.0	14	58.3
R5	23	95.8	12	52.2
R6	24	104.3	12	50.0
R7	25	104.2	12	48.0

肉用鶏	農家戸数		管理基準適用戸数	
		対前年比		割合
H27	9	90.0	3	33.3
H28	8	88.9	2	25.0
H29	8	100.0	2	25.0
H30	9	112.5	2	22.2
R1	9	100.0	2	22.2
R2	9	100.0	2	22.2
R3	9	100.0	2	22.2
R4	9	100.0	2	22.2
R5	8	88.9	2	25.0
R6	8	100.0	2	25.0
R7	8	100.0	2	25.0

図 1 畜産経営農家戸数および管理基準適用戸数の推移



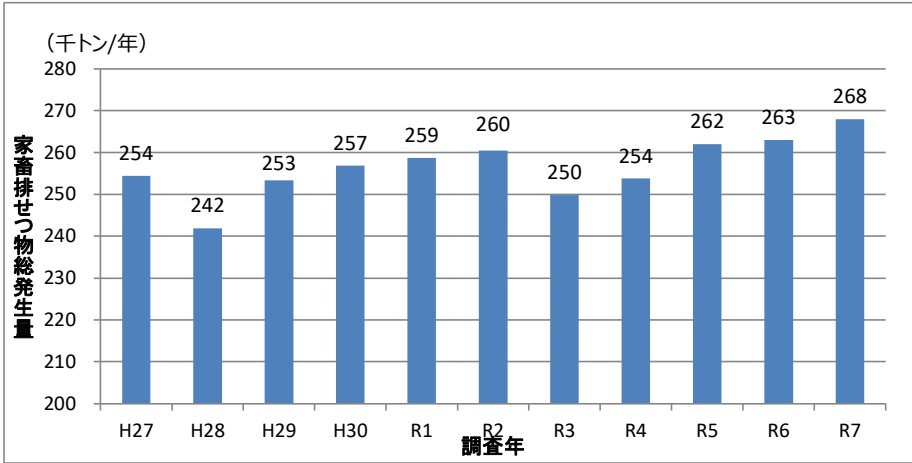
* 管理基準とは家畜排せつ物法第3条に基づき、畜産業を営む者が遵守すべき基準
管理基準適用対象は、牛は10頭以上、豚は100頭以上、鶏は2,000羽以上

表2 家畜排せつ物発生量

調査年	総発生量（t／年）						肥料成分推定量		耕地面積（h a）			耕地面積あたり窒素負荷量（kgN/ha）
		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	窒素（tN/年）	リン（tP/年）		田	畑	
H 2 7	254,380	56,388	162,621	12,606	18,153	4,612	1,816	255	52,800	48,700	4,130	34.4
H 2 8	241,906	52,030	157,663	10,297	17,908	4,008	1,719	242	52,600	48,500	4,100	32.7
H 2 9	253,340	51,006	169,171	10,833	17,964	4,367	1,777	247	52,400	48,300	4,090	33.9
H 3 0	256,830	48,020	179,578	7,641	17,517	4,074	1,771	242	52,100	48,100	4,010	34.0
R1	258,672	44,283	188,622	6,334	15,473	3,960	1,750	235	51,700	47,700	3,960	33.8
R2	260,422	45,391	189,257	6,334	15,479	3,960	1,752	235	51,500	47,600	3,930	34.0
R3	249,795	47,259	186,863	6,513	5,835	3,326	1,514	190	51,202	47,360	3,851	29.6
R4	253,789	46,975	194,226	3,657	5,567	3,363	1,525	188	50,900	47,100	3,830	30.0
R5	261,513	43,401	201,049	2,823	11,289	2,951	1,654	214	50,500	46,900	3,640	32.8
R6	262,721	42,091	202,402	3,166	11,130	3,931	1,672	216	50,000	46,500	3,540	33.4
R7	267,605	39,656	209,091	2,535	11,008	5,315	1,718	220	49,600	46,200	3,460	34.6

* 発生量および肥料成分推定量は、飼養頭羽数に原単位を乗じたもの
* 原単位は農林水産省農業研究センター公表¹⁾を使用
¹⁾：(財)畜産環境整備機構：家畜ふん尿処理・利用の手引き、3-5(1998)
* 耕地面積は、農林水産省令和5年産作物統計より

図2 年次別家畜排せつ物総発生量



家畜排せつ物の発生と家畜ふん堆肥の利用について

1. 生産と利用の経過

調査年	家畜排せつ物 発生量 (千t/年)	堆肥量 (千t/年)	利用可能 面積(ha)	耕畜連携	
				利用率 (%)	利用量 (千t/年)
H27	254	173	9,891	66.6	117
H28	242	164	9,548	69.5	115
H29	253	172	9,958	72.3	124
H30	257	175	10,092	71.6	125
R1	259	161	8,852	70.8	114
R2	260	177	10,053	71.0	126
R3	250	169	9,143	70.6	119
R4	259	172	9,176	66.0	114
R5	262	175	9,566	69.9	123
R6	263	178	9,744	69.6	124
R7	268	177	9,770	69.9	124

※利用可能面積は、堆肥量を畜種別利用可能量で除した面積

2. R7 生産と利用の状況

